

労務ROAD

社長が入れる労災保険のことなら

『葛城経営研究会』

詳しくは、06-6264-6543 まで!

河本社労士事務所

(編集担当:伊藤)

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-9-26 船場ISビル5F Tel:06-6264-6264 Fax:06-6264-6265

「社長の右腕」に抜擢される人 ~不可欠な10の特徴~

・経営者に頼られる人材「10の特徴」

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| 1. 考え方がポジティブ | 役割が守備的なものであっても、考え方や仕事への取り組み方が前向き。 |
| 2. コトやヒトの評価がフラット | 決めつけや偏見が少なく、他者の悪口を言わない。 |
| 3. 理想と現実の受容力が高い | 危機への受容度を高めておくことも重要。 |
| 4. 他者理解力 | 経営者のマインドをリアルタイムに理解し、把握できるかという力も不可欠。 |
| 5. 自己評価がフラット | 自分自身について客観性の高い評価ができる。 |
| 6. ストレス耐性 | 危機的な状況であるほど冷静に計算し、突破するアイデアを生み出せる。 |
| 7. 高い傾聴力 | 相手の真意をくみ取るコミュニケーション力が高い。 |
| 8. 敵を作らない | 裏付けや証拠がなく、心証だけで他者の悪口を言わない。 |
| 9. 等距離な人付き合い | 立場が異なる人物との付き合いも等距離で、嫌みなくフラットな立場を重視する。 |
| 10. 参謀志向ではない | 実際に参謀になれるのは、スペシャリスト志向か自らが経営者になりたかった人。 |

これらはあくまで傾向的な要素ですが、経営参謀になる人の大原則は、**自立したビジネスパーソン**として自ら考え、**当事者意識**を持って動けることです。社内で、また転職を機に、キャリアアップを図りたい方にとって、不可欠な視点であるともいえるでしょう。

厚生労働省が発表した2017年10月の有効求人倍率は1.55倍で、1974年1月以来、43年9カ月ぶりの水準になりました。高度経済成長期に匹敵する人材不足、売り手市場ではあるものの、上記の要素を兼ね備えた人材の確保が企業の成長にとって重要なポイントになってくるのではないのでしょうか。

【日経電子版より】

職場での防災 ~震災への備えはできていますか~

阪神大震災の発生から23年が経過し、東日本大震災からはまもなく7年を迎えます。災害直後は防災への意識が高まり、家庭や職場に防災グッズを備えた人も多くなりましたが、現在はどうでしょうか。いつ起きてもおかしくないと言われる大震災に備え、改めて職場での防災対策について確認してみてください。

★建物の耐震補強及びオフィス家具・什器の転倒防止対策

建物の安全を確認し、耐震補強を行います。

また、オフィス家具・什器の転倒防止対策を行い、安全な室内を確保します。

★非常用備蓄品の準備

災害発生時には二次災害防止のため、従業員の帰宅を抑制し、社内に留め置きます。

そのための**水・飲料・簡易トイレ**など、最低3日以上以上の物資を備蓄しておきます。

★家族との連絡方法の確認

帰宅を抑制し社内に留め置くため、家族との連絡方法を確立しておきます。

災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板サービスの使用方法を確認し、災害時に利用できるようにしておきます。

★従業員の安全確保(もしも大災害が発生したら・・・)

災害時に従業員等を自社内に留め置くことは事業者の責務です

周辺の安全が確保されるまで、その場にとどまり、むやみな移動は避けます。(二次災害の防止)

従業員等の帰宅を抑制し、社内に3日間留め置きます。



【東京都港区HPより】

また、職場から自宅まで徒歩で帰宅する場合に備え、普段から帰宅ルートを確認し、歩きなれたスニーカー、ヘルメット、軍手等を備えておくことも重要です。